

## 産廃処理施設に小学生招待



産廃処理工程を見学する児童ら

東武商事（埼玉真松伏町、小林増雄社長）は、自社の産業廃棄物処理施設に小学生を招いて見学会を開いた。東京都板橋区立志村小学校の3年生と関係者ら約70人が参加した。岡崎守執行役員は「弊社施設の見学や実施プログラムを通し、SDGs（国連の持続可能な

### 東武商事

開発目標）やサーキュラーエコノミー（循環経済）について楽しく学んで貰えれば」と述べた。児童らは関東最大級の複合型産廃処理施設「松伏スマート・リサイクル・システムズ」（松伏町）を訪問。業務紹介を受けたほか、キーホルダーを作り、施設を回った。模型を使って処理工程の説明を聞き、グループに分かれて処理棟や分析棟などを見学した。

同社にとって小学生を招いた大規模な見学会は初で、地域貢献事業の一環で開いた。2025年以降も継続する予定。

（川越）